

山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議

第1回 遊佐沿岸域検討部会

日時：平成30年8月6日（月）13:45～16:30

場所：遊佐町生涯学習センター

（山形県飽海郡遊佐町遊佐字鶴田 52-2）

○内容

1 開 会

2 主催者挨拶

3 遊佐沿岸域検討部会の設置について

4 部会の進め方等について

5 講 演

①「遊佐地先の漁業について」

国立開発研究法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 経営経済研究センター
主幹研究員 梶脇 利彦 氏

②「洋上風力発電の現状と展望」

一般社団法人日本風力発電協会 専務理事 中村 成人 氏

③「洋上風力発電と漁業協調・地域振興について」

一般社団法人海洋産業研究会 常務理事 中原 裕幸 氏

6 想定海域・予想される課題や影響等について

7 意見交換

8 その他

9 閉会

【配付資料】

【資料 1-1】 山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議 遊佐沿岸域検討部会 設置要領

【資料 1-2】 山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議 推進イメージ

【資料 2】 講演資料①

【資料 3-1】 講演資料②

【資料 3-2】 講演資料③

【資料 4-1】 遊佐沖での洋上風力発電の想定海域

【資料 4-2】 洋上風力発電において予想される課題や影響等

1. 開会

2. 主催者挨拶

佐藤次長（山形県環境エネルギー部）より挨拶。

3. 遊佐沿岸域検討部会の設置について

- (1) 事務局より資料 1-1 に基づき、研究・検討会議の設置について説明し、了承された。
- (2) 部会長は、研究・検討会議の吉村座長の指名により、三木委員が就任することで了承された。また、部会長の職務代理者は、三木部会長の指名により、中原委員が就任することで了承された。

4. 部会の進め方等について

事務局より資料 1-2 に基づき、説明した。

5. 講演

(国研)水産研究・教育機構 中央水産研究所の梶脇委員より「遊佐地先の漁業について」、(一般)日本風力発電協会の中村委員より「洋上風力発電の現状と展望」、一般社団法人海洋産業研究会の中原委員より「洋上風力発電と漁業協調・地域振興について」の講演があった。

6. 想定海域・予想される課題や影響等について

事務局より資料 4-1 及び 4-2 に基づき説明した。

7. 意見交換

佐藤委員（蕨岡まちづくり協会）

風車の建設により、海底の砂への影響、また海底の砂の移動により陸上への影響はあるか。

事務局 設置場所により異なるが、海底構造物により海底の砂等に影響を及ぼす可能性はあると考える。ただし、沿岸から 1km の地域を除外しているため、影響は弱まると考えている。今後の調査において、その影響について配慮する必要があると認識している。

西村委員（山形県漁業協同組合）

資料 4-1 の想定海域図について、沿岸から 1km の地域を外してあるか。部会のメンバーの中で、山形海区漁業調整委員会に入っていないが大丈夫か。

事務局 沿岸から 1km の地域は除外している。水産振興部局をメンバーに入れているため、必要に応じて、水産振興部局を通じた山形海区漁業調整委員会の意見聴取が可能である。場合によっては、部会長が会議の出席を要請することで直接、意見を聴くことも可能である。

梶脇委員（(国研) 水産研究・教育機構）

資料 4-2 の予想される課題は重要なものである。魚類の「今後の検討の方向性」では「事業者が環境影響評価等を行いながら、具体策を検討していく」と記載されているが、漁業に対する影響は、環境影響評価ですべて網羅されるか。環境アセスメント法には漁業への影響調査がないので、漁業者側の実態や懸念事項等について把握、調査し、水産専門分野へのアプローチが必要である。これらを踏まえ、書き直してほしい。

事務局 本資料 4 ページに、漁業に対する予想される影響及び効果も整理している。漁業関係については、早い段階から議論していくと認識しているため、資料を精査していく。

高橋委員（吹浦地区まちづくり協議会）

騒音、電波障害の発生による地域住民への影響の有無を調査してほしい。ないようであれば、住民に分かりやすく説明してほしい。

事務局 想定している設置地域は沿岸から離れているため、住民生活への影響は少ないと考えられる。電波障害に関しては、無線への障害について確認する。このような住民生活への影響については、事業者が参入時に詳細測定の必要があり、本部会ではみなさまの懸念を整えていきたい。

伊藤委員（西遊佐地区まちづくりの会）

吹浦地区、遊佐地区を想定しているようだが、1km 以上離れていても騒音について懸念されるのではないか。住民、漁業等、お互いのためにきちんと議論すると良い事業になると思う。また、鳥海山、飛島はジオパークとして認定されているので、景観を損なわないように配慮してほしい。

伊原委員（山形県漁業協同組合）

これから事業者を公募した時にどうなるか。住民への影響、漁業振興など様々ある。われわれ漁業者も議論に参加していきたい。

中原委員（(一社) 海洋産業研究会）

環境省では、風車の騒音による人間への影響について近年議論されており、風車から 800m 以内の場合、影響が生じるとされている。また、電波障害について、現在福島、五島等において洋上風力が設置されているが、まだこのような問題が出ていない。今回は風車の配置について議論しないが、風車の配置場所のレイアウトは、公表するとその通りに設置されると思われかねないので、慎重に進めたほうが良い。環境影響評価について環境省の知見を参照しながら進めてほしい。

佐藤委員（遊佐地域づくり協議会）

7月に開催された研究・検討会議の場において、遊佐に関係のある話題はどうであったかを説明してほしい。また、庄内のコミュニティ新聞で報道された風力発電の適地調査について確認をお願いしたい。

事務局 報道は、陸上風力に関する報道であり、かつ本県の調査内容や意図を反映したものではないが、本部会に関連する部分については、事務局で整理したい。

山家委員（県エネルギー政策総合アドバイザー）

漁業は、風車の近くで操業できるか。風車の間隔はあるが、漁業の網が風車に掛かってしまうことがあるのか。

また、発電事業者が漁業に影響を与える一例として、発電施設から温排水を出している事例があるが、漁業に影響あるか、調査しているか。

中原委員（（一社）海洋産業研究会）

風車の周りでの漁業操業は、安全性確保の面から基本的には考えにくい。漁業協調の一環として、漁業ができるように風車の間隔を広げることも考えられる。

梶脇委員（（国研）水産研究・教育機構）

発電施設からの温排水の魚への影響について、因果関係を明確にするのは難しい。温排水と違い、洋上風力の場合は工事に伴う騒音、振動が発生するので、漁業と協調しながらモニターする必要がある。

尾形委員（山形県鮭人工孵化事業連合会）

人口孵化事業への影響があるかどうかについて、資料を添付してほしい。また、我々は電気を大量に使う。電気代の値上がりにならないようにしてほしい。

佐藤委員（遊佐町環境審議会）

1点目は、風車の構造物により観光地への影響が生じるので、出羽二見や十六羅漢岩などの観光地を除いて設置してほしい。海岸線から夕日を見た時に、構造物が映ることはマイナスだと思っている。

2点目は、沿岸線の松林の保全に取り組んでいるが、風車の建設により海流の変化の影響で松林が浸食されることが考えられるので、海流への影響も把握できると良い。

3点目は、漁業にメリットがないと事業進行が難しい。漁業を研究しながら発展するようにしてほしい。風車が立って良かったと思えるようにしてほしい。

眞嶋委員（稲川まちづくり協会）

経済的な点だけでなく、景観、自然環境にきちんと配慮してほしい。

三木部会長（東北公益文科大学）

本日の議論内容を踏まえ、事務局で整理し、今後はより具体的な議論につなげていきたい。これをもって本日の議事を終了する。

8. その他

なし

9. 閉会

〔了〕